



精神科神経科

初期臨床研修

1. 初期研修 1～2 年次の研修目標

主な業務内容は病棟診療と初診患者の病歴聴取および初診外来の陪席である。加えて、指導医の下で時間外診療の補助を行い、精神科救急の基本を学ぶ。以上を通じて、さまざまな病態や病期にある症例の診断と治療、対応の基本を横断的に学ぶ。加えて、指導医、外部講師によるレクチャー、各研究グループのリサーチ・ミーティングなどは、すべて初期研修医も出席可能であり、これらへの積極的な参加を通じて、精神医学の入門的内容から最先端の研究内容まで幅広い知識に触れる事が可能となる。

具体的な目標は以下の通りである。

- ①統合失調症、気分障害、認知症について基本的な診断概念と薬物療法を理解する。
- ②精神疾患の診察において、病歴および症状の聴取と記載の基本を身につける。
- ③精神医学的面接技法の基本事項を理解する。
- ④精神科で行われる薬物療法について、疾患ごとの概要を理解する。
- ⑤精神科で行われる薬物療法について、代表的な副作用を理解する。
- ⑥脳波所見の解釈の基本を身につける。
- ⑦精神症状を伴う身体疾患の鑑別に必要な各種検査を理解する。
- ⑧任意入院、医療保護入院の法的な位置づけ、適応と手続きを理解する。
- ⑨隔離および身体拘束の法的な適応と手続き、リスクを理解する。
- ⑩救急受診を要する精神科患者について初期対応の基本を理解する。

後期研修

専門研修 1 年目の医員の研修目標

主たる業務は、入院患者の担当医として指導医の下での臨床業務である。この期間中に、精神医学的面接や薬物療法の実務経験を積む。また、患者の入院から退院までの治療を通じ、一貫して責任を持つことによって、精神科疾患の長期経過を知ることができる。また、精神科リハビリテーションについての理解を深めることができる。加えて、指導医の指導の下で他科からの診療要請に応え、リエゾン精神医学についても経験を積むことができる。各種レクチャーなどへの参加に加え、期間中に最低 1 回、学会発表を行うことを推奨している。このことは臨床の中で生じた疑問をより一般的な視点から再検討するよい機会となる。

具体的な目標は以下の通りである。

- ①操作的診断についての基本的な知識をもち、その限界も含めて理解する。
- ②定型、非定型抗精神病薬について、剤形や投与方法の違いも含めて作用と副作用を理解する。
- ③SSRI、SNRI を始めとする代表的な抗うつ薬の作用と副作用を理解する。
- ④各種抗てんかん薬及び気分安定薬についてそれぞれの特徴と副作用、血中濃度モニタリング

の必要性を理解する。

⑤医療保護入院、措置入院について、その適応と手続きを理解する。

⑥認知行動療法の適応と方法、治療計画の立て方を理解する。

⑦電気けいれん療法の適応と方法、治療計画の立て方を理解する。

⑧摂食障害の行動療法について適応と方法、治療計画の立て方を理解する。

⑨発達障害の診断の為の病歴聴取と必要な心理検査、基本的な治療計画の立て方を理解する。

⑩他科入院患者に生じた精神症状を評価し、その治療と対応方法の基本について理解する。

⑪各種神経画像検査および心理検査の解釈について基本的事項を理解する。

⑫精神科リハビリテーションの適応を理解し、スタッフと連携しながら治療計画を立てる力を身につける。

⑬臨床の中で遭遇した症例について臨床研究という視点より捉えなおし、過去の文献を参照して考察を加え発表する力を身につける。